

## 条約改正 4

以下の文章を読み、文中の空欄のなかに、もっとも適当と思われる語句を、下記の語群から選んで、その符号で答えよ。

安政 5(1858)年 6 月、アメリカを中心とする黒船外交の圧力のもとで、大老井伊直弼が調印した( 1 )は、いくつかの点で不平等な内容を強制されたものであった。在留外国人への( 2 )を認めるといふ治外法権があり、( 3 )も、その税率は協定によるといふことで、( 4 )を放棄させられていたのである。

明治新政府は、その改正を外交の基本課題とせざるをえなかった。明治 4(1871)年 11 月、その改正の予備交渉もあって、( 5 )を全権大使とする使節団を欧米に派遣した。その目的は果たせなかったが、その後まず明治 11(1878)年に( 6 )外務卿が、アメリカと( 7 )の改正交渉に成功したものの、イギリス・( 8 )の反対で成立しなかった。国内では( 9 )らが国民協会を組織して強硬外交を主張した。明治 23(1890)年には、( 10 )外相による交渉で、ほぼ改正に同意をとりつけたが、( 11 )皇太子が日本の警官によって負傷させられるといふ( 12 )がおこり、同外相が辞任し、交渉は挫折した。しかしその翌年にかけて外相( 13 )によって、日英通商航海条約が締結されるにいたり、ようやく( 14 )の廃止に成功した。さらに明治 44(1911)年にいたり、( 15 )の回復にも成功して、ついに新条約の締結となるのである。

〔語群〕

ア ロシア    イ 小村寿太郎    ウ フランス    エ 日米和親条約    オ 領事裁判権  
カ 大隈重信    キ 貿易自由権    ク 陸奥宗光    ケ アメリカ    コ 岩倉具視    サ 通行税  
シ 大津事件    ス 関税    セ 日米修好通商条約    ソ 大久保利通    タ 西郷隆盛    チ ドイツ  
ツ 寺島宗則    テ 関税自主権    ト 青木周蔵    ナ 日露戦争    ニ 国内自由旅行権  
ヌ 西郷従道    ネ イギリス    ノ 外交自主権    ハ 井上馨    ヒ 防衛自主権    フ オランダ  
ヘ オーストリア

解答

1 セ 2 オ 3 ス 4 テ 5 コ 6 ツ 7 テ 8 チ 9 ヌ 10 ト 11 ア  
12 シ 13 ク 14 オ 15 テ